

# 令和4年度全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 大里南 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、算数、理科)

#### 教科に関する調査(国語、算数、理科)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

#### 児童質問紙調査

○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

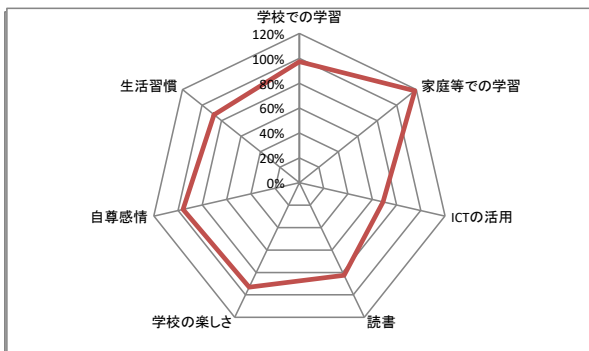
#### (1) 全国・本市の学力調査(国語、算数、理科)の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	9.8	61	10.4	61
全国	9.2	66	10.1	63	10.8	63

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全国平均を上回った。学習指導要領の内容については、どの観点においても全国平均を上回っていたが、特に「知識及び技能」の(1)言葉の特徴や使い方に関する事項が全国平均を大きく上回っていた。問題形式では、記述式の方が全国平均を大きく上回っていた。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よってきた問題	話し言葉と書き言葉との違いを理解しているかを問う問題の正答率が特に高かった。	
	努力が必要な問題	文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けるための問題の正答率が低かった。	
算数	全体的な傾向や特徴など	全国平均を下回った。思考・判断・表現力を問う問題の正答率は、全国平均相当だったが、知識・技能を問う問題の正答率は全国平均を下回った。図形についての問題では無解答率が高く、長方形や平行四辺形などの、図形の意味や性質、構成の仕方について再度確認する必要がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述する問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	2つの数の最小公倍数を問う問題の正答率が低かった。	
理科	全体的な傾向や特徴など	全国平均を上回った。学習指導要領の区分・領域では、A区分は全国平均相当だったが、B区分では、どちらも全国平均を上回った。特に「生命」を柱とする領域が全国平均を大きく上回っていた。問題形式では、記述式の方が全国平均を大きく上回っていた。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よってきた問題	観察で得た結果を、問題の視点で分析して解釈し、自分の考えをもつことができるかを問う問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	光の性質について理解しているかを問う問題の正答率が低かった。	

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画的に家庭学習に取り組んでいる児童の割合が高かった。また、家庭での学習時間が長くなってきている傾向が見られた。</li> <li>・将来の夢や希望をもっている児童は全国と同じくらいいる。それぞれの夢を実現させるために具体的な目標設定を行い、行動に結び付けさせる必要がある。</li> <li>・ICTの活用について、学校で十分に組み込んでいなかったことが明らかとなった。ドリルアプリだけでなく、ギガ端末を用いた授業づくりやその他ICT機器を用いた授業づくりについて校内で取り組んでいく必要がある。</li> </ul>

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組

算数科に関しては全国平均を下回ったが、国語科と理科に関してはどちらも全国平均を上回った。引き続き、教科担任制を生かした専門性の高い授業づくりの推進を行ったり、補充学習や家庭学習の充実を図ったりする。  
ICT機器の活用については、児童の理解向上に役立つかどうかを見極めながら、積極的に取り入れていくことができるように今後も継続的に職員研修を行っていく。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

読書時間の確保のため、学校図書館司書職員や委員会活動と連携して図書の日や休み時間の図書室の利用促進などを行っていく。  
スマートフォンやタブレット端末の使い方について指導を行うとともに、SNSやゲーム、インターネット利用時の家庭でのルールづくりについて保護者に啓発を行ったり、ICT推進教員と連携して情報モラル教育の充実に取り組んだりする。